【場所・面積】広島県庄原市、面積：408ha

【区域の目的・概要】

アサヒの森は「100年以上の人工林」・「生物多様性が豊かな森」を目指した長伐期林施業を基本とし、自然循環を通して地球環境への価値の最大化に貢献する持続可能な森林経営を実践していく。

【生物多様性の価値の概要】

価値3：主にスギ・ヒノキ植林地、自然林（コナラ林）から成る森林。隣接して水田が存在し、里山的景観を形成。

価値4：【健全性】多様な環境に希少種を含む多くの在来種が生育・生息。スギ・ヒノキ植林地は列状間伐等の管理の実施により下層植生が発達した健全な森林環境。
【生態系サービス】木材供給（供給サービス）、水源涵養、温室効果ガスの吸収（調整サービス）、環境教育（文化的サービス）。

価値6：調査で植物274種、鳥類40種が確認され、希少種の鳥類、魚類、両生類などの生息を確認。

【管理措置の概要】

森林の経営に関する基本方針に則って、（ア）森林の多面的機能を高度に発揮する森林経営を実施し、（イ）目標とする森林の姿とそれに向けた森林施業及び保護を実施。
・適切な施業を計画的に実施することで、水源涵養機能や土砂災害防止機能を発揮するとともに生物多様性も保全し、安定的かつ効率的な木材生産を実施。
・100 年 以上のスギ・ヒノキが生育する生物多様性豊かな森を目指し、
市場の状況を考慮しながらFSCの原則と基準にも則った間伐施業を継続。
・ 広葉樹を主体とする自然林については環境や生物多様性の保全に与える有用性を認識し、適切に管理。

・FSC基準に則り施業前・施業中・施業後のモニタリング(環境影響評価)を随時実施。
・施業前モニタリングで希少種等の存在が確認された場合は希少種の保全措置を取るか、計画の一部を変更して施業を実施。
・その他に定点観測を行い経年変化を観察している地点あり。